

(中国丙01)
インフルエンザ
発生推移
= 2026年1月度 =

発表: 2026年2月9日 全国NDPCA

作成: 2026年2月16日
日中医療衛生情報研究所

インフルエンザの分類について

- ここには一般の季節性インフルエンザと
(2013年11月分以後の)H1N1型が含まれていたが、
2025年9月1日より中国感染症予防治療法が施行されている点に注意。
- 中国でしか感染者が出ていない
H5N6や、H9N2については、
界面サイトでのH5N6患者に関する記述から、
「その他感染症」に分類されていることが判明しました
⇒ <https://www.jiemian.com/article/5659382.html>
(の最終パラグラフご参照)が、
⇒ 2025年9月度月報から、H9N2やH5N1、H5N6などが乙5の
『ヒト感染新亜型インフルエンザ』とされるようになりました。

中国インフルエンザの特徴

2008年からこれを振り返ってみると、

年間4万人(2009年)から350万人(2019年)までと振幅が大
コロナとインフルエンザの関係についての疑問:

2019年12月は1,199,771人

2020年01月は 986,543人

この2か月連続100万人という状況を、
衛生当局は検査体制の向上によると主張。

これに対し

2020年12月は 23,546人

2021年01月は 20,232人 となった

謎が一層深まる数字が飛び出した感じ:

’19年末の急増にコロナ患者が含まれていたのでは？...

突然爆増する中国のインフル

2008年からこれまでの追跡の中では、
年間4万人(2009年)から350万人(2019年)までと振幅が
大きい、コロナが見つかる直前の12月の爆増以外にも
単月で突如爆発するケースが増えている:

例としては、

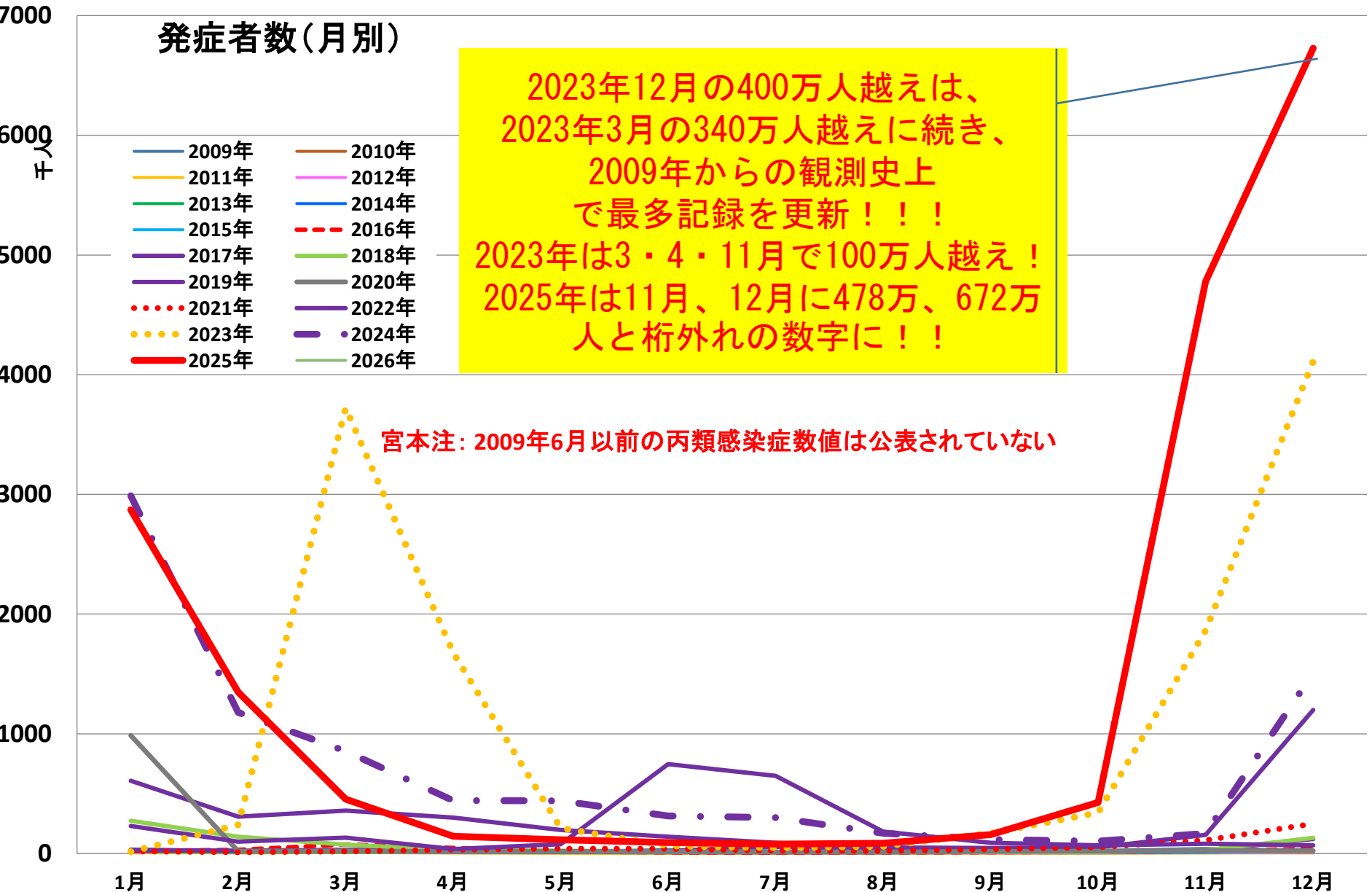
2019年12月に1,199,771例・2020年01月に986,543例、
2022年6月に747,038例、7月に648,465例となり、
(双極性を示すことが多い南方での発症者の影響?)

2023年3月には372万例、4月168万例、11月186万例、12月411例
人となり、1年のうち4か月で巨大な流行に！！)

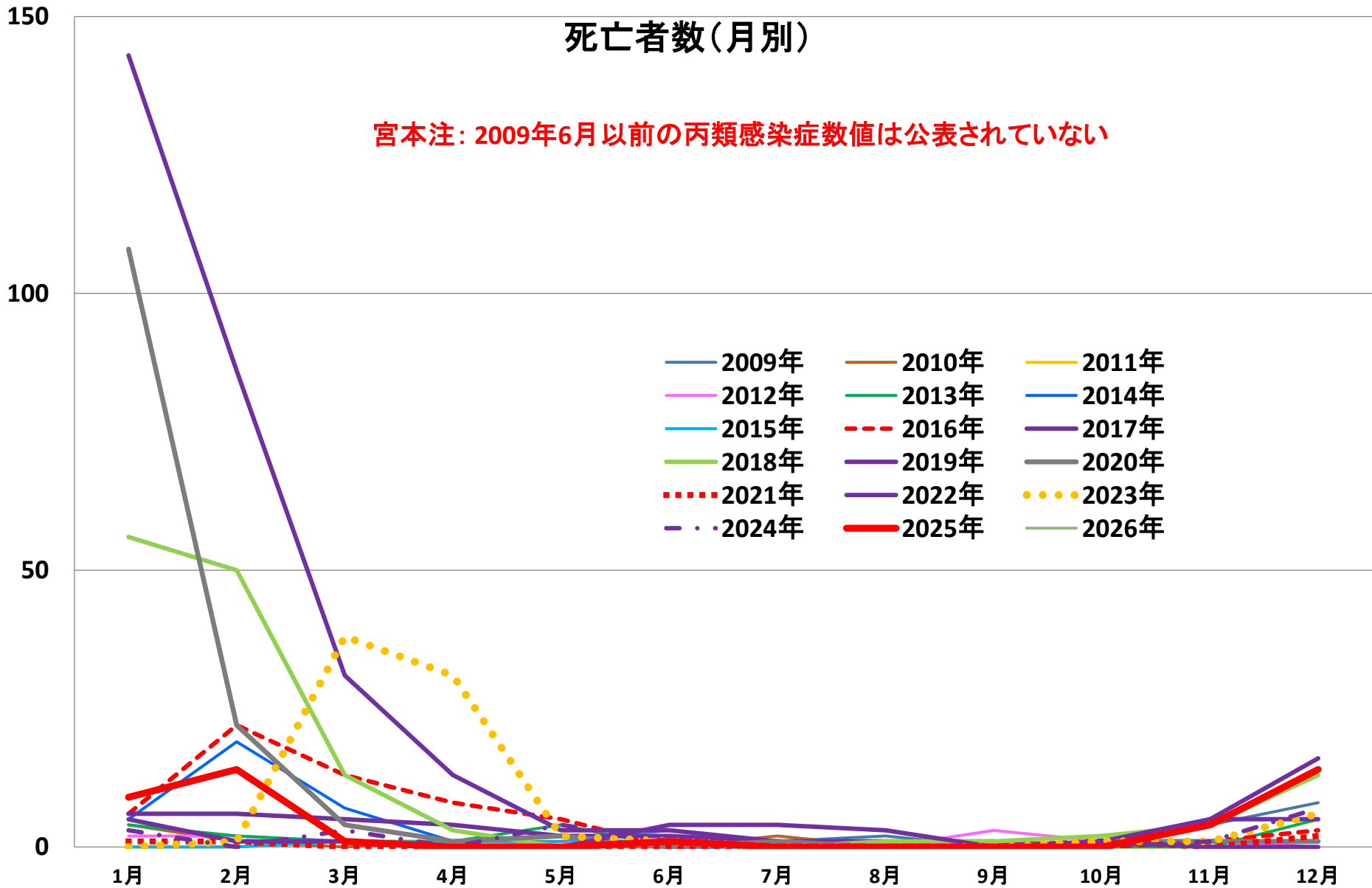
2024年も、**8,417,396**例(確報)に。

2025年の累計ベースでは17,281,873例と莫大な数字に。

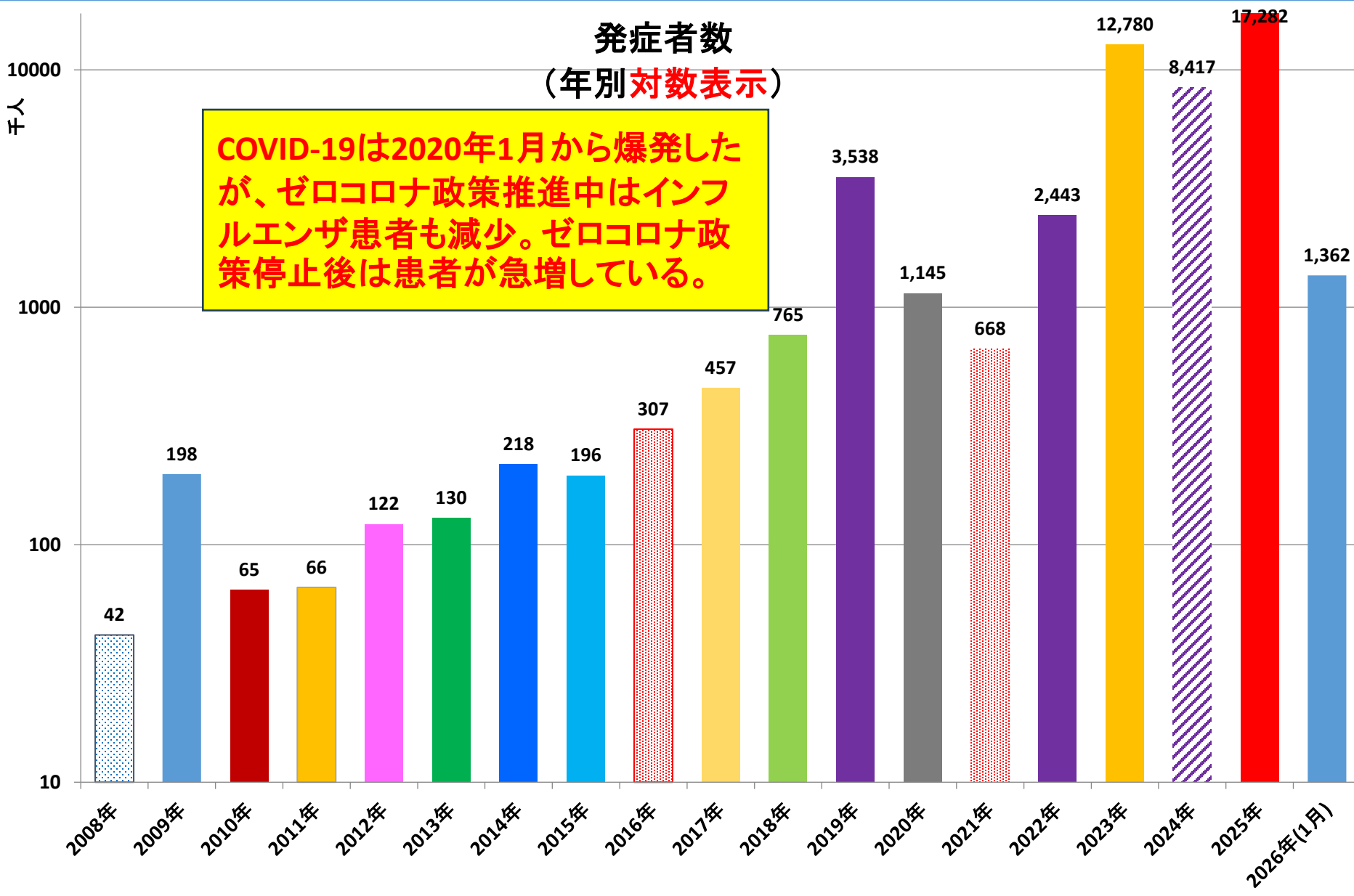
丙01：インフルエンザ発症者数



丙01: インフルエンザ死者数



丙01: インフルエンザ



丙01: インフルエンザ

